

様式

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

○活動報告書は、HP で公表しますので、公開可能な内容としてください。

○データのサイズは、写真を含め、8M以内に収め、ワード文書にて提出してください。

○こちらの報告書フォームに沿って全て記入してください。

令和 8 年 4 月 1 日

団体所在地 広島市中区江波南1丁目8-18

園の名称 一般社団法人育ちの森

職・氏名 園長 隅田 さちえ

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

・江波山、江波皿山などで春の植物や虫など観察したり触れたり五感を使って楽しむ。

【7月～9月】(夏季)

・妹背の滝(秘密の川)、大野自然観察の森にて保育士の資質向上の取り組み
・妹背の川で川の面白さ、不思議さ、危険性などを知る。
・川内第一公園で、生き物への探求心を育む。

【10月～12月】(秋季)

・鬼ヶ城で季節にあった自然物での遊びを知る。
・鈴が峰の山で五感を使いながら、登山を楽しむ。

【1月～3月】(冬季)

・比治山で、発達に合った自然物での遊びを知る。
・鈴が峰の山で様々な登山道を知り、登りきる達成感や満足感を味わう。

活動報告（詳細）

1 シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

（写真）



（エピソード記述）

江波山では斜面登りができる場所がたくさんあり、発達に合わせて環境を整えている。子どもたちにとって、どこに足を置いて踏ん張り、次にどこの枝を持って登るかなど、考える力も育った。ただ登りたいだけでなく、ここだったら登れるかな、ここから先は難しそうだから降りようなど、大人が言わなくても自分で判断することができるようになってきている。降りる時はリズムでしているボートの形に自然となり、日々の遊びから繋がっている姿もある。遊びの中で体だけでなく心も育っていると分かった。

【7月～9月】

（写真）



（エピソード記述）

せせらぎ公園では、生き物がいる場所を子どもたち自身で考え、川の流れが穏やかなところで小さな魚探しが始まった。観察できるように子どもたちが用意した虫かごを持っていき、じっくり観察することが出来た。菊間先生に、笹の葉のような長い葉を飛ばす遊びを教えてもらった。切れ目を入れて、手の動きの左右差を考えながら行うことが少し難しかったが、大人と一緒にできたことを喜んでいった。川の中でどのような遊びができるか、どんな生き物がいるのか子どもたちと調べ、充実した日になるといいと思う。自分で調べられるように、図鑑を持っていくのも良い。

【10月～12月】

(写真)



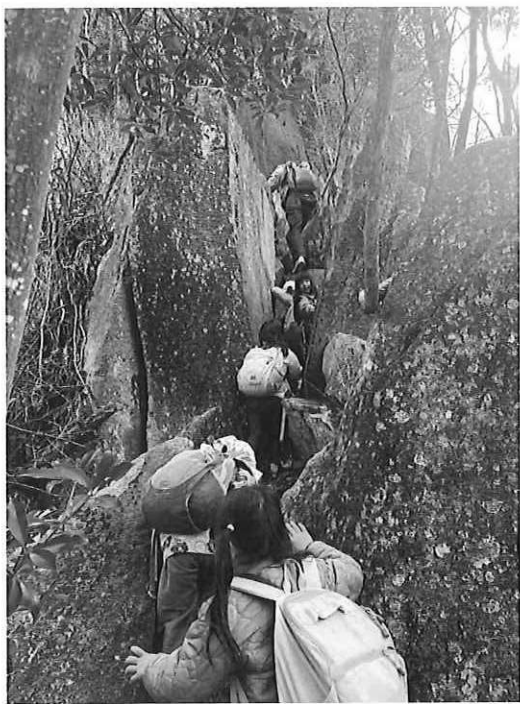
(エピソード記述)

鬼ヶ城にはたくさんの実がなっており、様々な発見や子どもからの気付き、発信を受け止めながら散策を楽しむ。「苦くてまずい」「さっきよりちょっと甘い！」と一人ひとりが五感を感じながら味わっていた。また食べられない実があることを知り、「これは赤いけど食べられるの？」と大人に確認しながら食べていた。まだ区別が難しい物もあるので、誤食に注意し、職員も知識を身につけていきたい。

葉っぱ一枚でも、遊びが広がる。自然に空いた穴も子どもたちにとっては面白い玩具に変わる。写真にもあるが背中に置くと、影でも遊べる。また色の変化や音、何がどう違うかを考えるだけでも子どもたちは面白い発見をしていた。近隣の山でも活かせる遊びをたくさん教えていただいたので、職員でも共有していきたい。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

大冒険コース！ゴットンイワがあるよ！という菊間先生の話に期待委が膨らんでいる様子の子もたちだった。イノシシが道をほぐしていてなかなか危険な道が続いていたが、先頭にいるうみ組が「ここあぶないから気を付けてねー！」と後ろにいるたいようぐみに伝える姿があった。「ありがとう！」というやりとりが自然にできていた。慎重に進んでいくと大きな岩場がありうみ組の数名は菊間先生の手を取り登っていたが、身体を見て「登れるぞ！」と判断した数名は自分の力で登っていた。以前は、弱音を吐いていたうみぐみだが今回は自分のペースを大事にしながら登山していて、誰一人弱音を吐かなかった。

年長児は、疲れている様子もなく登山を楽しんでいた。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

妹背の滝や大野自然観察の森を菊間先生に教えていただいたことで、その後園の職員全員で現地で研修を行った。実際に見て感じることで、川の面白さや不思議さ、また危険性から配慮することなどを話し合うことができた。

職員会議などで、近隣の山や公園などにある危険性がある植物や虫などを共有する。

- ・ 地域との関わりについて

月に一度、こぎつね畑という場所に行き、介護施設の方と触れ合う時間を作っている。野菜の収穫を一緒にしたり、一緒に空間で過ごしたりすることで関わりを深めている。

近隣の家の方で、さくらんぼや金柑を育てている人がいる。子どもたちが自分から話かけ、食べ物を通して交流へと繋がっている。

- ・ 保護者との関わりについて

保護者交流会にて、幼児組で普段遊んでいる江波山で大人だけで散歩に行く。実際に子どもたちがしている斜面のぼりや、山の中でのかくれんぼ、夏でも涼しい場所があることなど、体験してもらった。子どもの気持ちになって、なぜ自然保育を大切にしているのかを改めて感じていただくきっかけとなった。

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	https://www.instagram.com/sodachinomori/
-------	---